

# 石川県立美術館だより

平成16年1月1日発行 第243号

明けましておめでとうございます  
本年もよろしくお願いいいたします



麻地友禅瓜模様振袖 木村雨山 昭和12年 第1回新文展



蓬之棚 松田権六 昭和19年

開館20周年記念

## 北陸の人間国宝展

1月4日(日)~2月2日(月) 会期中無休 午前9時30分~午後5時 入館は午後4時30分まで)

### 目次

開館20周年記念 北陸の人間国宝展 .....2  
橋本雅邦と四季山水図襖 .....3  
新春を祝う 源氏絵と古筆 .....3  
明治の工芸(前期) 県美Q&A、各地の展覧会 ...4  
常設展示室 主な展示作品 .....5

講演会記録(日本画家 中町進の世界) ..... 6  
美術館小史・余話(40) .....7  
ミュージアム・コンサート、1月の行事案内 ...7  
所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信他 ...8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

常設展示室(第7~9展示室)

開館20周年記念

# 北陸の人間国宝展

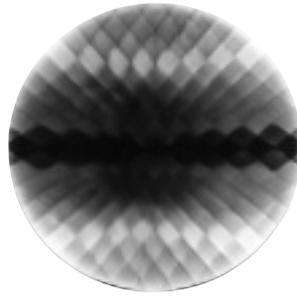
1月4日(日)~2月2日(月) 会期中無休

主催/石川県立美術館

共催/北國新聞社



截金彩色合子「花守犬」 西出大三  
昭和48年 第20回日本伝統工芸展



耀彩鉢 三代徳田八十吉 昭和61年  
第9回伝統九谷焼工芸展大賞

石川・富山・福井の北陸三県は、我が国でもとりわけ工芸技術の高い水準が維持されている地域としてよく知られています。中でも石川県は、江戸時代に加賀藩主前田家の美術工芸に対する積極的な施策によってこうした基盤がいち早くうち立てられて以来、一貫してその発展がうながされてきました。それは明治以後現在まで、その伝統は引き継がれています。明治二十一年に日本初の中等美術教育機関として開校した金沢工業学校(現石川県立工業高校)や昭和二十一年開校の金沢美術工芸専門学校(現金沢美術工芸大学)を筆頭に、石川県立輪島漆芸技術研究所や金沢卯辰山工芸工房など多くの育成機関の特筆すべき充実などはその顕著な例であり、今日まで数多くの名工を輩出してきた原動力と言えましょう。また、石川県と歴史的にも地理的にも強い結びつきを持つ富山、福井両県でも、特色ある伝統工芸が、やはり数多く受け継がれています。当館は、当初より工芸部門の収集ならびに展覧会の開催にも積極的に取り組んでおり、地域の美術館として特色ある活動を行ってきました。そこで、開館二十周年の節目を迎えるにあたり、そうした伝統的な美術工芸の盛んな地域としての北陸三県の特徴を、重要無形文化財保持者、いわゆる人間国宝二十三名からなる展示を行うことで、さらなる理解を高めようとするものです。

具体的には、石川県に生まれた人間国宝十七作家、同じく富山と福井の両県生まれの各二作家、そして昭和十一年と十六年に色絵を研究するため北出窯に長期滞在し、近代九谷の革新にも多大な薫陶を与えた富本憲吉と、蒔絵を松田権六に学んだ縁で戦中から戦後にかけて金沢に疎開し、作家として最初の活動期を行った田口善国という、石川県にとりわけゆかりの深い二作家をも加えた二十三作家の百五十五点を展示をいたします。最後にこの展覧会が、我が国の優れた伝統工芸技術に対する認識を深め、伝統工芸の振興発展にも寄与することを願うものです。

富山県出身の人間国宝として、魚津市生まれの松原定吉(染織「長板中形」)がありますが、十才で上京してから技術を身につけており、その活動と故郷との関係はほとんどないので、今回の展示対象からは敢えて除外させていただきます。

|              |    |              |           |
|--------------|----|--------------|-----------|
| 一般<br>600円   | 個人 | 一般<br>500円   | 団体(20名以上) |
| 大学生<br>400円  |    | 大学生<br>300円  |           |
| 高中小生<br>200円 |    | 高中小生<br>100円 |           |

観覧料

- 「出品作家」 括弧内は認定年/指定技法/生地  
石川県生まれの人間国宝
- 陶芸 三代徳田八十吉 (平9/彩釉磁器/小松市)
  - 陶芸 吉田美統 (平13/釉裏金彩/小松市)
  - 漆芸 松田権六 (昭30/蒔絵/金沢市)
  - 漆芸 大場松魚 (昭57/蒔絵/金沢市)
  - 漆芸 寺井直次 (昭60/蒔絵/金沢市)
  - 漆芸 前 大峰 (昭30/沈金/輪島市)
  - 漆芸 前 史雄 (平11/沈金/輪島市)
  - 漆芸 赤地友哉 (昭49/髹漆/金沢市)
  - 漆芸 塩多慶四郎 (平7/髹漆/輪島市)
  - 染色 木村雨山 (昭30/友禅/金沢市)
  - 染色 羽田登喜男 (昭63/友禅/金沢市)
  - 金工 初代魚住為楽 (昭30/銅鑼/小松市)
  - 金工 三代魚住為楽 (平14/銅鑼/金沢市)
  - 刀剣 隅谷正峯 (昭56/日本刀/松任市)
  - 木工 氷見晃堂 (昭45/木工芸/金沢市)
  - 木工 川北良造 (平6/木工芸/山中町)
  - 截金 西出大三 (昭60/截金/加賀市)
- 富山県生まれの人間国宝
- 陶芸 石黒宗麿 (昭30/鉄釉陶器/新湊市)
  - 金工 金森映井智 (平元/彫金/高岡市)
- 福井県生まれの人間国宝
- 和紙 八代岩野市兵衛 (昭43/越前奉書/今立町)
  - 和紙 九代岩野市兵衛 (平12/越前奉書/今立町)
- 石川県ゆかりの人間国宝
- 陶芸 富本憲吉 (昭30/色絵磁器/奈良県)
  - 漆芸 田口善国 (平元/蒔絵/東京都)



栃造八稜箱 氷見晃堂  
昭和31年 第12回日展



太刀 隅谷正峯 平成7年  
銘傘笠正峯作之/平成七年八月日



砂張銅鑼 初代魚住為楽  
昭和29年

常設展示室(前田育徳会展示室)

特集

# 橋本雅邦と四季山水図襖

1月4日(日)~2月2日(月)

本特集では、近代の前田家の「日本館」を飾った橋本雅邦による襖絵と、明治天皇の前田邸行幸を描いた下村観山による絵巻を紹介いたします。

東京大学の本郷キャンパス周辺は、かつて加賀藩の江戸屋敷(本郷邸)があった場所です。明治維新後、前田家は一時本郷を離れますが、後に戻り、明治三十五年、新たな邸宅の新築を決定します。それは、ルネッサンス様式を取り入れた「西洋館」と、伝統的な建築様式による「日本館」の二館からなるもので、特に「西洋館」の建設にあたっては、そこに「行幸を賜りたい」という、前田家の強い願いがありました。

一方、「日本館」は日常生活を営む場所として、奥小座敷二室のほか、当主夫人の居室、書斎などがありました。座敷横の縁側からは、大きな滝を望む庭園がありました。橋本雅邦の襖絵は、この座敷用に描かれたものです。

明治四十三年、明治天皇の前田邸行幸が決定し、その準備が慌しく進められます。特に一堂に陳列される前田家秘蔵品の選定は、慎重に行われました。自家の家宝の天覧は、その資格を示す大切な機会だったので。行幸当日、「西洋館」へ到着した明治天皇を、当主である利為が迎えます。午後からは「日本館」で能を天覧した後、座敷にて前田家蔵品の天覧となりました。この日の行幸は、前田家にとって記念すべき行事として、後に絵巻として描かれるのです。

時は流れ、大正時代の末期に東京大学の敷地拡張による本郷邸の解放が決定し、前田家は駒場に新たな居を構えることになりました。本郷邸同様、やはり「西洋館」と「日本館」が建設され、この時、本郷邸にあった雅邦の襖絵も新たな「日本館」へ移されます。当時、前田家では日常生活の西洋化が進んでいたため、当初、「日本館は不要」とされましたが、外国人用の迎賓館として建設されることになったのです。

現在、東京の駒場公園内には、この時建てられた「西洋館」と「日本館」が残されています。本特集では、本郷・駒場、二つの「日本館」を飾った雅邦の襖絵と、観山による行幸絵巻を通して、近代における前田家の栄華を紹介します。

平安時代の後期に成立した『源氏物語』は、ここで改めてご紹介するまでもなく、紫式部という非凡な才能に恵まれた女性が紡ぎ出した、日本文学史上、最も重要な古典作品として知られています。この物語は年月を経てなお、現在に至るまで世界中の人々に読み継がれているだけでなく、日本においては貴族や武家の教養の一つとして浸透しており、後代の文化に深く深い影響を与えています。

とりわけ美術史上における『源氏物語』は、平安王朝の華やかな生活や、そこに生きる人々の心情を伝えるものとして、「源氏絵」という一つのジャンルを確立するほど、重要な画題となっています。五十四帖からなる物語の中から幾つかを選び、それぞれの物語を象徴的に描いた場面を配した華やかな屏風は、土佐派や狩野派といった、各時代を代表する画家たちによって、多くの作品が描かれています。

『源氏物語』が成立した平安時代と現代とは、言葉自体も随分と変化していますが、欧米の言語は発音した音を表記する、表音文字のアルファベットのみであることに対し、日本語は表音文字である仮名と、意味を表す表意文字である漢字を併用しており、また書という伝統によって、より言葉における視覚的な側面が強められた言語です。能書家の筆蹟だけでなく歴史上の重要な人物の手紙などを、美しく表装して大切に伝え、歴史的資料としてだけでなく、美術品として位置づけているところから見ても、古来より日本人が、いかに表記された言語に美的価値を置いていたかということがうかがい知れます。

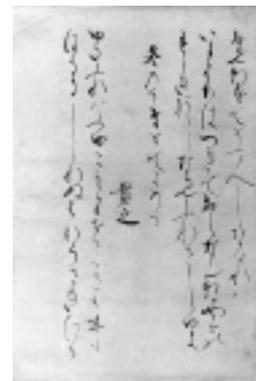
第2展示室における、平成十六年最初の特集として、源氏絵と古筆を取り合わせた展覧をご覧いただきませう。日本の古典文学を代表する物語を主題に取った屏風や画帖と、歴代の能書家たちの筆による和歌集の掛軸や、様々な人々の筆蹟を一つにまとめ、美しく装丁した手鑑から、失われつつある日本の文化を再発見していただければ幸いです。

常設展示室(第2展示室)

特集

# 新春を祝う 源氏絵と古筆

1月4日(日)~2月2日(月)



定家八代抄巻第六断簡 慈鎮(慈円)

常設展示室 第5展示室)

特集  
**明治の工芸(前期)**  
 1月4日(日)~2月2日(月)



時絵路に小鳥図額 柴田是真



金銀象嵌龍虎人物図燭台 米沢弘正

当館では、昭和三十四年に開館された石川県美術館から、新たに石川県立美術館として昭和五十八年に開館するにあたり、それまであまり展示することのなかった所蔵品の見直しをかける作業を行うことになりました。その中で、もっとも注目したのは、明治期を中心とする多くの工芸作品群でした。この時代の工芸については、まず国立博物館をはじめ、美術館で展示されること自体稀であり、特定の作品を除いては、識者にはほとんど評価されていなかったのが実情です。

そこで、当館で初めてこの特集を昭和五十九年度に行うにあたり、東京国立博物館と京都国立博物館に所蔵されている石川県関係の陶磁・漆工・金工の三分野の作品を借用し、当館の所蔵品とあわせて展示することと、まずは明治期の工芸作品の全体像をつかもうとするとともに、国立博物館所蔵品との比較をすることと、当館所蔵品の位置付けも図ろうとしたのです。

その結果、当館の所蔵品は、明治期の工芸史を語るうえで欠かせない貴重なものが多くあることが確認できたことと、単独の美術作品としても秀逸なものも少なくないことを主張できることを確信できたのです。

以後、毎年この特集を行うことで、当館では明治期を中心とする戦前の工芸が果たしてきた歴史的役割を再認識するとともに、その時代ならではの精緻な技術に裏付けられた豊かな表現世界を持つ工芸作品群が存在することを紹介してきました。

本年度もこの主旨にしたがって、石川県ゆかりの工芸作家とその作品を主にしながら、よりいっそうその魅力を楽しんでいただくために、当時の図案類もあわせて展示いたします。そして、今回は前期のみの展示作品として、明治期の九谷の陶技を現代につなげた功労者である安達陶仙の代表作三点を陳列いたします。

また、後期のみとしては、明治期の陶技の高さを知ろうえで見落とすことのできない、初代須田菁華と松本佐平の古九谷写しの作品を展示いたします。

県美Q&A

**Q** 展示室の換気は大丈夫？  
 いつも気持ちよく鑑賞させていただいております。先日気づいたのですが、展示室内を見回しても窓がありません。換気はどのように行われているのでしょうか？

**A** 当館に限らず、ふつう美術館では、展示物の保存管理上、空調設備により一年を通じて温度や湿度などを一定に保っています。もちろん外気を取り入れながらの調整なので、換気は十分です。そして空気環境測定調査も実施しながら、快適な環境の維持に努めています。外から入ってこられたご来館の皆様には、時に、冬は暑く、夏には寒いと感じられるかもしれませんが、これは外気との温度差のためなのです。また、空調の音が鑑賞の妨げにならないよう、風量についても注意を払っていますので、肌に風が感じられず、ご質問のような疑問を持たれたのではないかと、思います。

各地の展覧会..... 1月

開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

- 平賀源内展 1/18まで  
江戸東京博物館(墨田区・03-3626-9974)
- ぼくたち、わたしたちのわくわくミュージアム 1/18まで  
高岡市美術館(高岡市・0766-20-1177)
- 開館記念  
コレクションによる「もうひとつの現代展」 1/25まで  
神奈川県立近代美術館 葉山館(三浦郡葉山町・046-875-2800)
- デカダンから光明へ 異端画家・秦テルヲの軌跡 1/25まで  
京都国立近代美術館(京都市・075-761-4111)
- 三重の子どもたち展 1/4~2/1  
三重県立美術館(津市・059-227-2100)
- 七支刀と石上神宮の神宝 1/4~2/8  
奈良国立博物館(奈良市・0742-22-7771)
- トライ・アート2004 ムゲンダイ発見 1/6~2/11  
富山県立近代美術館(富山市・076-421-7111)
- 岩下哲士展 1/10~2/15  
滋賀県立近代美術館(大津市・077-543-2111)

常設展示室

# 主な展示作品

12月3日(水)~24日(水)

● = 国宝      = 重要文化財  
 = 石川県指定文化財



酔っ払い 坂坦道



色絵鶉草花図平鉢

## 前田育徳会展示室

特集 橋本雅邦と四季山水図襖

四季山水図襖

四季山水図襖下絵

臨幸画卷

## 第1展示室

● 色絵雄雉香炉

色絵雌雉香炉

## 第2展示室

特集 新春を祝う 源氏絵と古筆

源氏物語画帖

源氏物語図

手鑑

和漢朗詠集

定家八代抄巻第六断簡

色絵鶉草花図平鉢 古九谷

色絵百花散双鳥図平鉢 古九谷

青手桜花散文平鉢 古九谷

## 第3・4展示室(油彩画・彫塑)

油彩画

手鏡

幻想

Work White 20

蜘蛛の糸

和伎母一隅

作品 6906 2

待つ女

黒いタイツ

赤いクツシヨン

彫塑

海

裸婦

橋本雅邦

橋本雅邦

下村観山

野々村仁清

野々村仁清

伝住吉具慶

伝岩佐又兵衛

慈鎮(慈円)

鯛雲

潮音

酔っ払い

## 第5展示室(工芸)

染色

友禅赤茶地鶉落葉文訪問着「暁声」

友禅婦人室用衝立

特集 明治の工芸(前期)

赤絵龍図花瓶

色絵金彩花詰蓋物 附図案

時絵棕櫚に芭蕉図聯

時絵路に小鳥図額

金銀象嵌草花文鳥籠置物

鉄打出鳩置物

木村珪二

新谷英夫

坂坦道

上野為二

中山修三

石野竜山

清水美山

川之辺一朝

柴田是真

初代山川孝次

山田宗美

## 第6展示室(日本画・書)

日本画

総談議図

廬山観瀑図

集る

那智神滝

雪の裾野

帰漁図

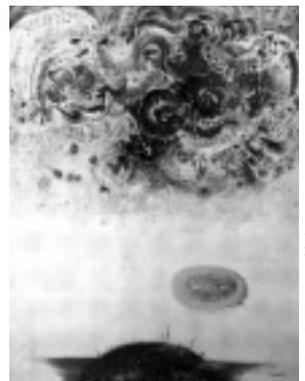
書

煌めきの時A

幽邃

五言一句

幻想 岡田登志男



大沼憲昭

越塚友邦

下村正一

羽根万象

原田太乙

横山大観

表立雲

水田清風

横西霞亭

横西霞亭



金銀象嵌草花文鳥籠置物 初代山川孝次

廬山観瀑図 越塚友邦

|              |           |     |
|--------------|-----------|-----|
| 一般<br>350円   | 個人        | 観覧料 |
| 大学生<br>280円  |           |     |
| 高校生以下は<br>無料 |           |     |
| 一般<br>280円   | 団体(20名以上) | 観覧料 |
| 大学生<br>220円  |           |     |
| 高校生以下は<br>無料 |           |     |



## 講演会記録

## 「中町進の世界」を語る

講師：中町 進

(日本画家・金沢美術工芸大学名誉教授)



この展覧会は、はからずも私の画業50年、石川県立美術館の創立20周年ということで、私にとっては意義のあることだと思っています。

あらためて、自己紹介を少しだけしますと、私は輪島でかなり幅広くやっていた漁業を営む家に生まれました。子どもの時代から学校の図画工作と音楽の成績がよかったので、周りの人たちは、冗談に絵描きになったらいいんじゃないかみたいな話をよくしていました。けれど私の母が、小さい自分と弟を残して他界したり、また太平洋戦争が始まるというような非常に混沌とした複雑な時代でしたから、絵描きの道など、とても考えることがありませんでした。それが終戦を迎えるころに、ちょうど金沢美大が創立するというので、絵を描く気持ちがまたよみがえって、美大の方に進学しました。日本画を専攻し、楽しい生活を送っていたんですが、父の漁業が倒産してしまい、突然、仕送りが滞ったんですね。たちまち食べるどころか本当にどうしたらいいかわからなくなったんです。そんなときでも学友というのはありがたいもので、みんなが、せっかくめざした絵の道だからやめるなということで、助けてくれました。そして、ありとあらゆるアルバイトをしたような気がしますが、なんとか卒業しました。翌年、友人の薦めで日展に出しますが、日展など、雲の上の展覧会と思っていたから、5年に一度でも通ったらしめたものという考えで出しました。それが、入選してしまったわけです。その後、京都の池田逢邨先生に入門をゆるされて、絵を描いていったのです。

人間が絵を描くという行為を調べてみるときに、先史時代のラスコーやアルタミラの洞窟画を考えると、おもしろいと思うんです。この洞窟は小さくて、かがんでしか入れないくらいのところに絵が描いています。それでは、絵の具はどうしたのかなあと考えていくと、一万五千年も前の人たちが、もうすでに絵の具を自分なりに工夫して、たぶん近くにある石だとか砂だとか、色のついたようなものを集めてきて使ったんじゃないでしょうか。洞窟画に近い古代の絵画といわれるようなものには、ある程度、世界に共通していることがあります。何万キロも離れているので、交流などあるはずがないけれども、自然発生的に、その頃の人たちが絵の具を求めました。それで、岩に描いても乾いたらぼろぼろ落ちるから、落ちなくする工夫もしたでしょう。肉を焼いたら出る汁が、乾くと固まります。固まるというこ

とをおぼえたら、絵の具の中にそれを混ぜれば、今私たちが岩絵の具を膠で混ぜて描くのと同じということ、自然発生的にそれができたんじゃないかというふうに考えてしまうわけです。

そこには、あえて言うと二つの意味があると思います。一つは、絵の具屋さんがなくても、人間が工夫してつくった絵の具は、われわれが使う絵の具の原点と一致していて、これがとてもおもしろい現象だと思います。それから、早くから美術というか、絵画が開発されているのに、とくに日本でも近代まで、教育の中に、美術や絵画を取り上げることが非常に遅かったということです。明治のころから戦前までは、教科書を見て描きました。教科書を見て描いて、上手に描ければ成績がいいという単純なことで、私も成績がよかったです。けれども、野原へ出てほんとうに自分の思ったことを描いても、評価の仕方が非常に難しかった。むしろこの頃は、行儀、しつけ、作法というものに近いものだったんじゃないかと思うんですね。大正10年頃に、山本鼎という人が、長野県の上田で自由画運動をはじめていました。その人が『自由画教育』という本を出すんです。その『自由画教育』を全国の図画の先生たちに配るんですけども、それにはいいことが書いてあります。自らが外へ出て、そして自らが感じたことを描かなければいけないと。教科書を横に置いて見て写すのではなんの役にも立たないということを言っています。河原の水のせせらぎの音、小鳥の鳴き声、土の匂い、そういうものを絵にしていく心で絵を描いていくということこそが、本当の絵だということを彼が言うんです。けれども、さほど全国にそれが普及することがありませんでした。日本人というのはこだわりがあって、なかなかそれを打破することが難しかった。そういう経緯があって、この遅れた美術の教育も、太平洋戦争が終わって、われわれが美術の教育に携わるようになって変わりました。イギリスのハーバート・リードという、思想家でもあり美術史家でもある人の書いた『芸術による教育』という著書の中に、個性的な表現を尊重するということ、それから情操を養うということ、そしてなんといっても、美術は人間形成につながるものでなければならぬということが書いてあります。それが現在の美術教育の在り方の参考になっていると思うのです。

ともあれ、若い頃、岩絵の具にあこがれて、お金もないのにやっと買って描いたあの絵の具。こういう魅力のあるものを、いつまでも使っていきたいし、太古の時代から使われた一万五千年も前からある絵の具の、鉱物を粉にして使うというロマンを、次の人たちも大事にしていってほしいなと思っています。

(「特別陳列 - 日本画家 - 中町進の世界」にちなんで、8月24日に当館ホールで行われた講演内容を、当館の責任で要約したものです。)

美術館小史・余話 40 嶋崎 丞(当館館長)

新館開館に向けての作品収集

すでに述べてきたように、新館の建設規模は旧館の5倍、展示面積にいたっては7倍の大きさに膨れあがるので、作品の収集を急ぐ必要があった。旧館時代に、古美術品と伝統工芸品は、一応最低限度の数を確保し、それらを専用展示する別館工芸館構想は中止することになったので、多少は展示室を埋めることはできるようになった。それに前田育徳会展示室を設置することにはなったが、育徳会の収蔵品は貴重な文化財、中でも古文書や古文献が大部分を占めており、この展示室の運用についても大きな課題が浮上してきた。また純粋美術部門としての近現代の日本画や洋画も収蔵品は皆無に等しく、彫刻部門にしても吉田三郎のコレクションがあるのみで、他は全く無く、常設部門の七つの展示室を十分に埋めるには、作品をどのようにして収集するかが大きな課題であった。

幸いなことに、石川県は東京、京都に次いで美術工芸の伝統が総合的に育まれている土地柄であり、新美術館の使命や性格は、そうした伝統を生かした地方色豊かな美術館づくりを目指すよう答申がなされている。こうしたことをうけて、私共準備室の職員は、どのような作家の作品を収集すべきか急いでリストを作成することになった。そして専門委員会や開設準備委員会の承認を得て、所有者や作家に対して収集についての協力を仰ぐ交渉を始めることになった。私に与えられた美術館開設に関する仕事のうち、建設事務もさることながら、こういった収集交渉の仕事が大部分であった。ある作家の方が冗談に言われた言葉であると思うが、私の顔を見ると、「またあのたかりが来た」と思われたほど、しつこくお願いして廻り大変な苦勞をしたが、今はそれが喜びとなっている。

ミュージアム・コンサート

オーケストラ・アンサンブル金沢による室内楽の調べ

前号でご案内いたしましたミュージアム・コンサートの概要が、別記のように固まりました。開館20周年記念行事の最後を飾るにふさわしく、メルボルン交響楽団首席トランペット奏者のジェフリー・ペイン氏を迎えて、トランペットを中心にした晴れやかな室内楽の調べをお楽しみください。

なお、応募受付の締切は1月7日(水)必着分となっております。応募詳細につきましては、改めて前号をご確認いただきますよう、お願いいたします。

【日時】

1月21日(水)午後1時30分～

【演奏者】

|        |                  |
|--------|------------------|
| トランペット | ジェフリー・ペイン / 谷津謙一 |
| ヴァイオリン | 坂本久仁雄            |
| ヴァイオリン | ヴォーン・ヒューズ        |
| ヴィオラ   | 石黒靖典             |
| チェロ    | 大澤 明             |
| コントラバス | 今野 淳             |
| ピアノ    | 寄島真紀子            |

【演奏曲目】

パーセル作曲 トランペットボランタリー  
 シューベルト作曲  
 ピアノ五重奏曲イ長調「ます」より第四楽章  
 ヴィヴァルディ作曲  
 二本のトランペットのための協奏曲  
 サン＝サーンス作曲 七重奏曲変ホ長調  
 このほかに、トランペット協奏曲や弦楽四重奏曲が別途予定されていますが、都合により内容が変更になる場合があることをご了承ください。

1月の行事案内 《入場無料・いずれも午後1時30分から行います》

| 月日      | 行事           | 内容   | 会場  |
|---------|--------------|--|-----|
| 1/10(土) | 土曜講座         | 日本人の美意識5 「みやび」の美学 (村瀬博春 学芸主査)  | 講義室 |
| 1/11(日) | 月例映画会        | 蒔絵 大場松魚の平文のわざ(32分)<br>越前奉書 岩野市兵衛(25分)  | ホール |
| 1/17(土) | 土曜講座         | 北陸の人間国宝展 概論・陶芸・截金・紙 (寺尾健一 普及課長)  | 講義室 |
| 1/18(日) | 連続講座         | 開館20周年記念連続講座<br>美術館よもやま話 人間国宝あれこれ 講師：嶋崎 丞(当館館長)                                    | ホール |
| 1/21(水) | ミュージアム・コンサート | オーケストラ・アンサンブル金沢による室内楽の調べ<br>演奏曲目：サン＝サーンス 七重奏曲ほか<br>入場整理券が必要です。詳しくは前号と本号の記事をご覧ください。 | ホール |
| 1/24(土) | 土曜講座         | 北陸の人間国宝展 金工・刀剣・木竹工 (前田武輝 学芸専門員)  | 講義室 |
| 1/25(日) | 月例映画会        | 蒔絵 寺井直次の卵殻のわざ(30分)<br>木の生命よみがえる 川北良造の木工芸(25分)                                      | ホール |
| 1/31(土) | 土曜講座         | 北陸の人間国宝展 漆芸・染織 (西ゆう子 学芸員)  | 講義室 |

1月の全館休館日は1日(木)～3日(土)です。

## 源氏物語図

伝岩佐又兵衛

天正6年(1578)~慶安3年(1650)

石川県指定文化財

江戸時代 17世紀

縦79.5 横266.0(cm)



日本文学を代表する古典として、後代の文化全般に大きな影響を与えた『源氏物語』は、美術においては「源氏絵」というジャンルを築くほど重要な話題の一つとなっています。徳川美術館と五島美術館が所蔵する、国宝の「源氏物語絵巻」のような物語絵巻が知られていますが、室町時代から江戸時代初期にかけて、主として土佐派の画家たちが、五十四帖の各段から一画面を選んで色紙に描きました。その色紙を画帖にしたり、屏風に貼り交ぜることが盛んに行われると同時に、大画面の屏風に古典風俗画として描かれるようになり、狩野派をはじめとする各派の画家たちも、画題として積極的に取り上げるようになりました。

今回ご紹介する作品は、源氏五十四帖から「胡蝶」<sup>こちょう</sup>、「玉鬘」<sup>たまから</sup>、「絵合」<sup>えあわせ</sup>、「桐壺」<sup>きりつぼ</sup>、「紅葉賀」<sup>もみぢのが</sup>、「澪標」<sup>みぞくし</sup>の六場面を、金箔押し雲形で区切り、順不同で描いた屏風です。金と極彩色に彩られた品格の高い画風で、常よりもやや丈の低い小屏風に仕立てられており、いかにも大名の姫君の調度品にふさわしい作品と言えるでしょう。描かれた場面も、光源氏が帝の皇子として生まれ、青春を謳歌する時代の「桐壺」「紅葉賀」、政治的に不利な立場となり一時期都を離れたものの、罪を許されて高い地位にのぼりつめた時代の「澪標」「絵合」、夕顔の娘を中心に据えた、平安時代のシンデレラストoryとも言える「玉鬘」「胡蝶」と、明るく華やかでドラマ性に富んだ段が選ばれています。

本作は江戸時代初期に独自の作風を確立して活躍した岩佐又兵衛の作と伝えられています。伝統的な土佐派風の筆法で流麗に描きながらも、人物のふっくらとした下膨れの顔などに、又兵衛様式の特徴を見ることが出来ます。

## ミュージアムショップ通信

2004年がスタートしました！今年の抱負はお決まりでしょうか。私共はこれからも充実した展覧会や行事が皆様に満足していただけるように頑張って企画・運営していきたいと思えます。もちろん、ショップで販売する商品もいいものをそろえてお待ちしております！

さて、当館でただいま開催中の「北陸の人間国宝展」は、是非ご覧いただきたい展覧会です。優れた伝統工芸技術を誇る作家の作品が155点展示されます。しかし、残念なことに展覧会の図録は作られません。その代わりというわけではありませんが、石川県の人間国宝展を紹介します。平成元年に金沢市の市制百周年に協賛して開催された展覧会の図録です。ショップの本棚に置いてありますので自由にご覧下さい。



石川県の人間国宝展  
(定価2,000円)

## 次回の展覧会

- 特集 遊戯具と調度 (前田育徳会展示室)
- 特集 石川県の仏画 (第2展示室)
- 特集 明治の工芸(後期) (第5展示室)
- 特集 さまざまな人体表現 (第4展示室)

2月6日(金)~3月3日(水)

休館日：1月1日(木)~3日(土)

石川県立美術館だより 第243号

2004年1月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>